| えんぽとたんぽの始発駅<br>里山ビオトープ二俣瀬 | 会　報　第84号 | ２００８年7月２３日<br>里山ビオトープ二俣瀬をつくる会<br>編集責任者：西原 一誠 |
|---|---|---|


**１．活動報告（事務局　記）**

―６月３０日（月）善和園の吉久施設長さんほか指導者１１名と生徒１２名にて９：３０～１４：３０駐車場及びビオトープ全域の草刈をやっていただきました。つくる会吉冨匡会員、原田マ他大空さんも田んぼ、蕎麦田、周辺、水路の草刈も行いまして大変きれいに整備されました。

―７月５日（土）１）合鴨の放鳥式：二俣瀬児童保育児童７名にて放鳥を無事終了しました。宇部日報（月）に記載されました。

２）エコアップ：池のアサザ、湿地帯のタテバチドメグサ、オオフサモの間引き除去しました。　湿地帯のサギソウ島にカルガモが巣づくりしていましたが、卵を３個残して飛び立ちました。そのまま自然の成り行きにしておく事になりましたが、目を離したあっという間にカラスが持ち去りました。

３）先日善和園の奉仕で刈り取っていただいた草を堆肥にする為集積しました。

―７月１５日（火）中国電力宇部電力所の方がボランティアとして須賀河内川のヨシ刈りに参加されました。午前は中電１７名と会員８名（田村副会長他）で、午後は中電１５名と会員１名で対応しました。

―７月１９日（土）午前　２３名の参加でした

エコアップ：湿地帯　観察橋周囲のカサスゲ、タテバチドメグサの除去
池　　アサザの間引き、　止水池　ガマの間引き
田んぼ　　コナギ成長のもの除草

午後　１３名の会員と隊員１９名保護者会員１３名でした。

田んぼの生き物、そのほか池、須賀河内川、湿地帯にて、子供達にとって珍しい数多くの水生昆虫などを採取しました。手押し除草機を使っての除草もトライしました。

参加されました会員のみなさま大変暑い中ご苦労さまでした。

**２．今後の予定（事務局　記）**

◎　見学者

―７月２３日　（水）　厚南こどもエコクラブ親子約４０名夏休み学習会

◎　行事

―８月３日（日）　維持活動エコアップ　（スゲ、イグサ、アサザ、ヒツジグサ）
合鴨養育圃場　撤去予定

―８月２３日（土）午前　ソバの植え付け
午後　里山自然観察隊（川の探検）

**３．来訪者の声　（東屋のノートより一部抜粋）**

今月はありません

## ４．ビオトープ関連（ビオトープのトンボたち）　管　哲郎

### （２）ヤマサナエ（サナエトンボ科）*Asiagomphus melaenops*

(SELYS, 1854)

北海道より九州まで幅広く生息する日本特産種のトンボで、５月より７月にかけて成虫はみられます。平地や丘陵地の中流域に多く見られますが、支流部の細い流れにもすんでいます。ビオトープの周辺や須賀河内川の上流部でも５月から６月にかけてたくさん見られるようになります。

羽化は朝のうちに済ませてしまいます。羽化の時間は１時間ほどで終わり、まだ体が黒くならないうちに飛び立ち、近くの山の中へ隠れてしまいます。

普通のトンボの羽化では、飛び立つ前には翅を開きしばらくして翅を震わせウォーミングアップを済ませた後に飛び立つのですが、サナエトンボ類では翅を閉じたままでも強い風や驚いた時などには、そのまま飛び立つ事もあります。

春先にみられる大型のトンボで、目の前に現れると心が躍ります。同じ時期に現れる大型のトンボではクロスジギンヤンマがいますが、池の上をパトロール飛行していますので川べりの草の上や枝先にあまり止まらないので、間違うことはまずありません。２００８年５月３日、長門市の深川川の中流部で羽化している本種を確認しています。５月の連休明けよりぼつぼつ成虫の姿が見られる事でしょう。

羽化中のヤマサナエ　５月１３日

飛び立つ直前のヤマサナエ（♀）

クロスジギンヤンマ（♂）

ヤマサナエ（♀）

５．会員の声　（　新会員　内藤武顕　）

“えんぽとたんぽの始発駅”　　パートⅢ　早起きは三文の得

朝の風はまだだいぶん冷たい。気持ちのいい朝である。６時ビオトープの細道を歩いてみる。走り雨のせいか、道の正面はうるんで柔らかい。思わず道のわきに立ち止まった。翼が１m余りの黒っぽい鳥が２羽、空中より池ゾーンへ急降下するのが見えた。合鴨が襲われたと思った。２羽のカルガモが目の前を飛んで行った。羽ばたきが聞こえてくるような勢いだった。厚東川へ一直線に消えていった。メタボリのお腹のことも忘れて走った。怒鳴りながら走った。浮島から大きなアオサギが舞い上がった。合鴨たちは無事だった。中年組の合鴨は元気に水路の中にいた。ひな鴨たち８羽は何事もなかったように須賀河内川側のネット沿いに餌をせっせとついばんでいる，身体から力が抜けた。

あぜ路の小草には露がひかっている。カモの池を上がって舗道を歩く。左に急カーブすると右手一帯に薄緑色のもやがかっかっており、きれいに手入れされた棚田がある。奥の細道の入口の風景である。２センチくらいのカエルたちが濡れた路上を横切っている。手にとって草むらへ運ぶ。静かな稲田の上を紫色の蝶が舞っている。初めて蝶を美しいと思った。馴染みのトンボたちもきっと現われるにちがいない。土の中、水の底、草の茎などに潜んで時を待っていた虫たちの命の気配感じる盛夏。熱暑のこの季節に動き出す。里地に里山に夏休みの子供たちに出会うことになる。大人たちも俳句の世界では夏の季語として数多くの虫たちを観察して詠むことになる。

『しずかさや　岩にしみいる　蝉の声―芭蕉』

風はまだ冷たいのに汗がぞくぞく出てくる。体が疲れをしらせるのか？足は自然にまわれ右をしている。帰り途は、やはり先がしんぱいな中年鴨の様子を眺めることになる。白いピンクの花に彩られた池の中を４羽の鴨が悠々と泳いでいる。２羽の鴨は浮島に上がって仲良く草の根をついばんでいる。朝から絵になる風景に出会えた。**やはり早起きは三文の得。**

６．里山自然観察隊（7月１９日、隊員　１９名、保護者　１３名、会員　１３名）

田んぼの生き物　　（西原　一誠　記）

まず、何人かの隊員に田んぼに入ってもらって、手押しの除草機でアイガモと共に除草をしてもらいました。生き物調査は田んぼではなく、ため池や止水池や湿地帯で、網を使っていろいろな生き物を捕まえてもらいました。主にカエルを捕まえてもらいましたが、まだオタマジャクシからやっと成体になった小さなカエルが多かったため、ヌマガエルでは背中の白いスジが判別しにくかったり、ニホンアマガエルとシュレーゲルアオガエルの区別が難しかったりしましたが、多くのカエルを捕まえてくれました。

| カエル | 魚類 | 水生昆虫 | 昆虫他など |
|---|---|---|---|
| ヌマガエル（４６）<br>背に白いスジ（１０）<br>ツチガエル（7）<br>ニホンアカガエル（5）<br>シュレーゲルアオガエル（１２）<br>ニホンアマガエル（５２）<br>総数（１２２）<br><br>オタマジャクシ多数 | メダカ<br>カワムツ<br>ドンコ | タイコウチ<br>マツモムシ<br>トンボのヤゴ多数<br>コオイムシ<br>アメンボ<br>マメゲンゴロウ<br>ガムシ | イシガメ<br>タニシ<br>カナヘビ<br>クモ<br>ヌマエビ<br>スジエビ |
| ５種類 | ３種類 | ７種類 | ６種類以上 |

## ７．会よりの連絡事項　（事務局より）

３月２０日孵化した合鴨５羽と親カモ１羽は田んぼの草取りのため、養子に行きました。長い間心を癒してくれましたが、いろいろ苦情、問題もありいずれは別れなくてはならなかったのですが、草取りに役に立つということで提供しました。

国道２号線二俣瀬区山中の「ドライブインつるや食堂」西側の田んぼで働いています。見にいってやってください

## ８．編集後記

先日ある集まりで、ムササビを見に行きました。光市で保護され、現在は宇部市内の専門の飼育員さんが育て、野生復帰に向け訓練中とのことでした。赤ちゃんの時はミルク、今はリンゴ等を食べますが、自然ではコナラ等木の葉や実を食べるそうです。初めてムササビをさわらせてもらいましたが、毛はフワフワで、とてもかわいかったです。このムササビを育てられている方は、真締川でもまだ昔ながらの姿が残る土地を購入され、畑を耕し、小屋等を建てておられます。川の生き物の調査等を行いながら、地元の人達が集まれる場所を作りたいと願いながらも、手探りの中、色々と悩まれている様子でした。その方が実現させたい活動の一つが、二俣瀬の里山自然観察隊にとても似ていて、西原さんに相談され見に来られてはいかがでしょうかと言ってしまいました。観察隊の様子をお伝えすると、目を輝かせて「行きたい！」と言っておられました。里山ビオトープ二俣瀬の活動が、色々な地域で頑張っているけど同時に悩みを抱える方々にとって、たくさんのヒントになれば、とてもステキなことだなと思いました。もしその方がいらっしゃったら、どうかよろしくお願いします。

（大野　靖子　記）